

長野県立歴史館のリニューアル案について

- 開館から 30 年が経過し、施設・設備等が老朽化。貴重な歴史資料の収蔵スペース逼迫も顕著。
- 常設展示は、体験を重視した復元展示が主体。展示資料は随時見直しているが、大幅な見直しは困難。
- 今後、①常設展示の全面リニューアル、②展示室内の温湿度管理など展示環境整備、③展示室以外の老朽化対応も含めた機能充実にに向けた取組が必要

県立歴史館リニューアル 今後の取組の方向性

令和 8 年には長野県 150 周年を迎えるほか、新たな長野県史の編さんに着手することなど、長野県の歴史を見つめなおす契機となることに加え、本年 3 月に策定した長野県 DX アクションプランに基づく県立歴史館の DX 化などの新たな課題も生じていることから、改めて、将来に向けた歴史館のあり方について検討が必要。県史編さんによる増加分を見込んだ歴史資料の必要収蔵量や、施設・設備の老朽化の実態など、歴史館のあり方検討の基礎となる事項について、今年度から順次調査していく

※R7.6.26

長野県議会 6 月定例会一般質問

自民党竹内正美議員からの質問への知事答弁

① 常設展示の全面リニューアル

○常設展示リニューアルの方向性※総合情報課

- 論点 1 テーマ型と通史型の比較検討
- 論点 2 環境復元展示と収蔵資料展示スペースのあり方
- 論点 3 映像機器とコンテンツ案に係る検討
- 論点 4 バリアフリー化、多言語化、乳幼児対応

※常設展示リニューアルのあり方検討 (R5)

② 展示環境のリニューアル

- 常設展示室の環境整備※総合情報課
屋根天井の修繕、空調設備の更新 (今後検討)
- 企画展示室の環境整備※総合情報課
空調設備の更新 (R7 設計、R8 で更新工事)

③ その他の機能充実にに向けた取組

- 収蔵スペースの拡張※考古資料課、文献史料課
考古資料の収蔵スペース等の拡張 (今後検討)
- 中長期修繕・改修計画(R8~R17)※管理部、学芸部
劣化度調査による修繕必要箇所の把握等 (今後検討)
- デジタル化による情報発信※総合情報課
館蔵資料の電子データ化を進め利活用促進 (今後検討)
- 照明器具の LED 化※管理部、学芸部
照明設備の LED 化 (R7 設計、R8 工事) ※企画展示室

